

# 中高一貫教育だより

## ～広尾の子どもは広尾で育てる～

第57号

令和2年  
8月発行

発行者  
広尾町中高一貫教育推進委員会



今年度、新たに北海道広尾高等学校長として着任した小島政裕校長。広尾町中高一貫教育連絡協議会長として、新たな任地で意欲に燃える小島校長に、新型コロナウイルス感染症の影響、中高一貫教育の成果と今後の展望などについてお話を伺いました。

Q. まずは、新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休校の影響について伺います。

A. はい、4月8日より通常どおり学校が再開されましたが、4月20日から5月いっぱいまで臨時休校となりました。その間、高校では7日間の分散登校を行い、学習支援及び6月からの登校再開に向けての体慣らしを行いました。6月から学校が再開され、行事も祝日もない状態でひたすら週5日、授業時数の回復を中心に取り組んでいるところです。

Q. 夏季休業と冬季休業の一部も登校日に充てられるようですが、中学校に比べて高校の登校日が少ないのはなぜですか？

A. 高校の場合、7月の学校祭とその準備期間が授業に変わったところが大きいです。行事やホームルーム活動で計上されていた学校祭準備及び学校祭当日の時間がすべて授業時間になったため、それだけで7日ほどの授業時数が確保されました。そういった、臨時休校中に失われた授業時数と、今後の授業時数を教

務部で計算してくれた結果、夏・冬休みそれぞれ4日ずつ登校日にすることで年間の授業時数を確保できるとの見通しが立ったためです。

Q. さて、本題に入りますが、この4月に着任して、広尾高校と広尾中学校との連携型中高一貫教育について、どのようにお考えですか？

A. 平成18年度（2006年度）からスタートした「広尾地区連携型中高一貫教育」で目指したものを継続していくことが大切だと思っています。それは、「郷土広尾を愛し、心豊かに学び、新世紀を逞しく、主体的に生きぬく人を育てる。～地域の教育力を結集し、広尾の子どもは広尾で育てる～」の理念を継承していくということです。広尾町にある多くの教育資源を活用しながら、郷土を理解することでより郷土を愛する気持ちを高め、郷土のために働くような生徒を育成していきたいと考えています。

Q. これまでの成果は何だとお考えですか？

A. 今年で15年目を迎えますが、その間、紆余曲折を経ながらさまざまな取り組みが行われ、着実な進化を遂げたことの一つに、SCC（中高一貫校相互乗り入れ授業）があります。各教科部会が連携し、中学校と高校の教員がチームティーチング（複数の教員で学習を進める授業形態）を行ったり、数学や体育で高校生が中学生に教えたりすることが行われています。また、高校生による、中高のギャップを埋めるための学校生活ガイド（語り場）や、進路実現を果たした生徒による進路講話等も行い、高校生や高校の教員を身近な存在とすると共に、広尾高校の魅力を発信してきました。

また、小学校との連携として、理科の出前授業や、教員対象の理科実験研修も行っております。中高のみならず、小中高一貫教育に向けてさまざまな取組を行っているところに成果が現れてきていると思っています。

Q. 今後の展望についてお聞かせください。

A. まずは、何と言っても生徒募集です。今年度の3年生は1間口となっています。便宜上2クラスに分けていますが、生徒数としては1クラス計算です。1、2年生が2間口ですので、来年度の1年生が41名以上来てくれると2間口となり、全学年で2間口が完成します。2間口を維持することで、現在、本校が行っている習熟度別授業やコース別の授業が継続されます。その後の中学生や小学生の人数を見ると、やがては1間口も見えてきますが、その進みを緩やかにするためにも、来年度、41名以上の生徒数を確保したいところです。

次に、小学校との連携の強化を図りたいと思います。中学校との連携は良い形で継続されています。これからはその内容について検討は必要となるでしょうが、形は出来上がっています。そのことから、次にはスタート時点の理念の一つである、小学校（認定こども園）からの一貫性や積み重ねについてさらに深化させて行きたいです。

さらに、理念にあるとおり「地域の教育力の結集」です。広尾町の持つ歴史的文化財や、漁業・農業・林業の一次産業、観光や防災等、教材となるべきものがたくさんあります。町で行われている出前講座はもちろん、各スペシャリストによる講演や体験授業等を積極的に活用していくことで、地元愛を深めさせていきたいと考えています。

今年度は新型コロナウイルス感染症により、さまざまな行事が中止や延期を余儀なくされ、中高の連携事業も例年に比べ、遅れてのスタートとなりそうです。これからもこうした未知なる出来事が起こることが想定されます。そのときに、小中高が連携し、自ら考え、行動できる人材の育成を目指した教育活動を行っていることがとても重要になります。正解が一つではない問題に対応できる、創造力のある子どもたちを育成していくために、広尾町の教育力を活かしながら取り組んでまいりたいと思いますので、町内の方々にもぜひご協力賜りますよう、お願い申し上げます。

小島政裕校長先生、ありがとうございました。

# 広尾町中高一貫教育合同部会議開催のご報告



5月19日(火) 広尾高校体育館において、広尾町中高一貫教育合同部会議を開催いたしました。

## (1) 会議の経過

中高一貫教育の目指す方向や推進のあり方について全体会議を行った後、各教科部会で一年間の連携型教育の進め方を話し合い、その後、5つの分掌部会に分かれ、教育課程、進路、特別支援などの業務における連携のあり方について協議し、散会となりました。

なお、以下に掲載している順番が逆になっているのは、スペースの関係となっています。ご了承くださいますようお願い致します。

## (2) 各分掌部会の様子と実践テーマ

### ①教育課程・学習指導部会

実践テーマ

基礎・基本を定着させ、確かな学力を向上させる。

～6年間の発達段階に応じた学習指導の充実～

### ②特別活動・生徒指導部会

実践テーマ

- 1 学校行事を共同開催し、中学生、高校生が連帯感を高め、協力性を学ぶ。
- 2 日常の生徒指導の交流と、中高連携による生徒指導の実践を行う。



### ③進路指導・総学部会

- 1 6年間を見通したキャリア教育の実践
- 2 6年間の進路指導を通して、個々の生徒に関する具体的な情報を連携2校で共有するシステムの構築
- 3 異学年間での合同学習を通じた、表現力や問題解決能力の伸長
- 4 地域理解を深め、地域に貢献する生徒の育成

### ④広報啓発部会

実践テーマ

中高一貫教育だよりの発行を通して、生徒・保護者・地域住民への広尾町中高一貫教育の活動状況等について発信する。

### ⑤特別支援部会

実践テーマ

- 1 中高の連携・協力した指導方法・指導計画の研究
- 2 関係機関と連携した教職員の専門性の向上に関する取り組み



### (3) 中高教科部会の様子と実践テーマ

今年度の教科部会は、国語科、社会科、数学科、理科、英語科、保健体育科、家庭科、養護の8部会に分かれて開かれました。

各教科部会では、生徒の興味関心を高め、学力と指導の質が向上できるように、広尾町の生徒の実態に合わせ、具体的に実践的なプランを話し合いました。

各教科の実践テーマは、以下の通りです。

#### 『国語科部会』

##### 実践テーマ

- 1 生徒が論理的に展開する文章を書けるようになるための作文指導の在り方
- 2 生徒が積極的に日本の伝統的な言語文化を親しむための授業の在り方

#### 『英語部会』

##### 実践テーマ

生徒自身が、自分の学習到達度を理解できるCAN-DO-LISTとClassroomEnglishの効果的な運用



#### 『社会科【地歴・公民】』

##### 実践テーマ

- 1 中高の連携活動を活かした効果的な学習指導の工夫  
→基礎・基本の定着を目指した中高相互乗り入れ授業の実践
- 2 中高6年間の学びもれのない、きめ細やかな連携教育を目指した教育課程の研究  
→中高基礎学力テストの分析等による、中高6年間を通して重点的に指導すべき学習領域の検討



#### 『保健体育部会』

##### 実践テーマ

- 1 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさを深く味わい、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を高める。
- 2 運動における協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、一人ひとりの違いを大切にしようとする意欲や態度を育てる。

#### 『家庭科部会』

##### 実践テーマ

- 1 6年間を通して発達段階に応じた系統的な学習内容により、家庭生活における基礎的・基本的な知識や技術の定着を図る指導の実践
- 2 被服および調理実習におけるTTの実践による生徒個々の能力に応じた個別指導の充実



#### 『数学部会』

##### 実践テーマ

- 基礎的・基本的な知識や技能の習得を目指した数学的活動の工夫
- 1 ティーム・ティーチングの充実
  - 2 高校チューター学習の研究・実践

#### 『理科部会』

##### 実践テーマ

- 1 乗り入れ授業や共同実験及び授業参観での生徒の実態の把握を通し、6年間の見通しをもった指導の反映
- 2 基礎・基本の定着の推進とともに、自然科学に対する関心を高めることをねらった実験や観察方法の開発

#### 『養護部会』

##### 実践テーマ

- 1 生徒・地域の実態や健康課題の共有と対応策の検討
- 2 生徒・地域の実態をふまえた保健指導・カウンセリングの充実